

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

- 児童の実態を把握し、基礎・基本の定着を図る。
- 主体的に取り組み、認め合い、話し合い、学び合う授業の実践を行う。

北小松島小学校
「学力向上実行プラン」

学力向上検討委員会構成

学力向上推進員 西崎 仁美	委員 校長 中村 誉 教頭 高木 智 教務主任 竹内 知子	研修主任 阿部 さおり 生徒指導主任 川又 佳也
------------------	--	-----------------------------

校長

中村 誉

◎次の(1)～(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

(1)知識・技能の習得

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○漢字の読み書きや整数の四則計算が身に付き、与えられた課題に真面目に取り組める児童が多い。 ●語彙が少なく、書くことが苦手な児童が多い。	・基礎的・基本的な知識・技能を身に付け、意欲的に学習に取り組むことができる。 ・身に付けた知識・技能を他の学習や生活の場面において活用できる。 ・語彙数が増え、正確に読んだり書いたりできる。	・朝のモジュールや授業の導入部分に、単元の復習や既習内容の発展・活用問題等を取り入れた課題を与え、継続して行う。 ・児童が興味をもって学習に取り組むことができるように、発問や課題設定を工夫する。 ・語彙力を高めるため、読書の時間を取り入れ、日記や作文の指導をしたりする。			

【各校の取組状況の把握について】

管理職や教員間での授業参観や研修、報告など、機会を捉えて取り組み状況の把握を行う。

(2)思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○自分の考えを発表したり、友達の意見を聞いたりする活動を好み、意欲的に取り組める児童が増えてきた。 ●自分の思いや考えをよりよく相手に伝えたり、説明したり、新しい考えを作り出したりする力に課題がある。	・問題解決に向けての方法を考え、一人一人が自分の考えを表現することができる。 ・自分の考えと相手の考えを比較・検討するなど適切な言語活動により、よりよい考えを見つけ出すことができる。	・授業のめあてを明確に示すとともに、問題解決のためのペア学習やグループ学習の機会を設定する。 ・児童が意欲的に学習や発表ができるよう、タブレット端末やICT機器等を効果的に活用する。			

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○授業に一生懸命取り組むことができる。また、家庭学習の習慣が定着してきている。 ●与えられた課題は真面目に取り組むが、自分で課題を設定し、主体的に取り組める児童が少ない。	・めあてをもとに、自ら学習課題を見つけることができる。 ・学習過程において、自らを振り返る時間を設定し、達成感や自身の成長を実感することができる。 ・学習課題や家庭学習に対して主体的に取り組むことができる。	・体験や活動を取り入れ、生活の中から課題を見つけたりする場を積極的に設ける。 ・話し合い活動や発表の場を効果的に取り入れる。 ・「家庭学習の手引き」を活用し、家庭学習や自主学習の仕方を具体的に提示し、個に応じたアドバイスを行う。			

令和5年度 学力向上ロードマップ

